【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名 愛知県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	小牧市立応時中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	1	15	00
生徒数	179	149	176	4	508	32

研究の概要

1.研究主題

確かな基盤を身につけ、課題に立ち向かう気概を持った生徒の育成

2.研究内容と方法

- (1) 実施学年・教科
- ・ 全学年・全教科
- ・ 学力向上フロンティアスクールの指定を契機に、全ての教科指導について学力の 定着と指導のあり方を見直すため、また、全ての教員が、自分の教科の問題として 研究に取り組める体制をとることにより、全ての生徒にその成果を広めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度					
--------	--	--	--	--	--

平成15年

度

テーマ

学力向上にむけての基礎研究

研究の見通し

学力向上の基盤となる「脳機能の活性化」と「人間関係」を中心に基礎的な研究を進め、次年度に向けての土台作りを行うとともに、少人数指導及び 習熟度別指導についての実践研究を行う。

研究の内容・方法

東北大学川島隆太教授の「脳機能イメージング研究」の成果を参考にし、 生徒の脳機能を高めるための、トレーニング方法について研究と実践を行う。 「人間関係」については、南山大学人間関係研究センターと連携し、主とし て道徳の時間を利用して、「ラボラトリーメソッドによる体験学習」に取り 組み、その考え方を授業に応用する基礎研究を行う。

個に応じた指導を実現するため、少人数指導や習熟度別指導による実践研究を、主として、数学・英語・理科において行い、その効果的な導入方法を 模索する。また、その成果を他教科に応用する方策を研究する。

成 16 年 度

テーマ

学力向上に向けての授業改善の具体化 研究の見通し

「脳機能活性化トレーニング法」の確立と授業への導入及び「ラボラトリ ーメソッドによる体験学習」の理論を基にした単元計画及び授業展開を確立 することにより、学力向上に向けた指導のあり方を具体化していく。また、 少人数指導・習熟度別指導に効果的な導入方法についても、その一つの柱と して位置づけを明確にしていく。

研究の内容・方法

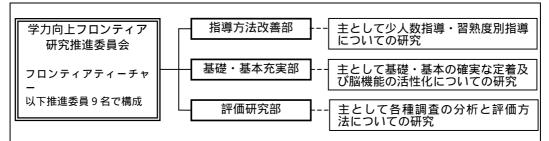
「脳機能活性化トレーニング法」として、「音読」を授業に取り入れる際 の留意事項をさらに明確にするとともに、「音読」以外の活性化方法につい てさらに研究を深め、その教材化を図る。

「ラボラトリーメソッドによる体験学習」の理論を教科指導の中に反映さ せるとともに、「体験学習」で用いられるエクササイズの形式に準じた授業 形態を生み出し、その教材化を図っていく。

少人数指導においては、条件の許す限り、その導入を促進していく。また、 習熟度別指導については、「部分的習熟度別指導」を軸に「レディネス別指 導」や「傾向別指導」についても、研究を深めていく。

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



上記のような研究組織を立ち上げ、全教員がいずれかの部署に所属し、研究に取り 組んでいる。また、研究の成果を学校全体に浸透させたいとの観点から、基本的に全 教科を研究の対象としている。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1.研究の成果

客観的な数値としては、1月に実施した目標基準準拠テスト(CRT)及び4月に |実施予定の集団基準準拠テスト(NRT)の結果と分析を待たなくてはならないが、 |研究初年度として、その足場固めができたと考える。例えば、「音読」の導入効果に ついては、客観性にやや疑問はあるものの、以下のような向上例がある。

— m	3 / (133 12 1 1 1 /				
時 期	音読導入前	音読導入後			
テスト名	1 学期中間	1 学期期末	2 学期中間	2 学期期末	
平均通過率(%)	54.3	64.5	67.6	71.7	

音読導入前後の社会科定期テスト「知識・理解」の通過率の比較

また、「ラボラトリーメソッドによる体験学習」については、道徳の時間を利用し て取り組んできたことで、全ての担任(一部副担任を含む)が実践を行うことで、そ の理論と実践に対する基礎的理解を行うことができた。また、全ての生徒が体験でき たことで、次のステップへと進む土台作りができた。

2.今後の課題

今後の課題の重点として、次の4点が挙げられる。

- ・ 15年度の基礎研究のための研究組織から、16年度における実践研究の深化に対応するための組織への改編
- ・「脳機能活性化レーニング法」の開発と教材化
- ・ 「ラボラトリーメソッドによる体験学習」の理論の教科指導への応用とエクササイズ化
- ・ 少人数指導及び習熟度別指導に関わる指導体制と指導方法の確立及び指導と評価の一体化に向けたアイデアの発掘

学力把握のための学校としての取組

- ・ 集団基準準拠テスト(NRT)毎年4月実施 学習の成果を集団内(全国)の相対的位置で明らかにし,学力水準の把握や指導 に役立てるために行う。
- ・ 学習適応性テスト(AAI) 平成15年4月より実施 個々の生徒の持つ学習適応性(学習場面における種々の障害を乗り越え,能力相応 あるいは,それ以上の学習効果をあげていく傾向)を調べ、個に応じた指導のための 基礎資料とするために行う。
- ・ 目標基準準拠テスト(CRT)平成16年1月より実施 一人ひとりの目標到達の度合いを明らかにして,その結果判明した未到達の生徒 に指導を行うなど、習熟度別指導に対応する資料を得るために行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1月14日 1年数学科習熟度別指導授業の公開
- ・ 2月25日 愛日地区学力向上推進協議会において研究成果の報告
- フロンティア事業専用ホームページの公開 http://www.k-ohji-j.ed.jp/frontier/
- ・ フロンティアティーチャーの代表として、県の学力向上推進委員会にも参加
- ・ 小中学校間の連携を果たす目的で、校区内にある小学校での授業研究会に参加

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 □ 15年度からの新規校 14年度からの継続校 【学校規模】 4~6学級 3 学級以下 7 ~ 9 学級 10~12学級 図 13~15学級 16学級以上 【指導体制】 ☑ 少人数指導 □ その他 図 国語 【研究教科】 $oxed{oxed}$ 社会 $oxed{oxed}$ 数学 $oxed{oxed}$ 理科 🖂 外国語 □ 音楽 ☑ 美術 🛛 技術・家庭 🖂 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 図 有 無